

あけましておめでとうございます

日高農業改良普及センター 所長 北島 潤



新年あけましておめでとうございませう。皆様におかれましては、新たな年をご家族と共に健やかに迎えのことと、心よりお慶びを申し上げます。

また、日頃より普及センターの活動に際しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年も引き続き新型コロナウイルス感染症の渦中であり、日常活動への負荷や制限を受けつつ各処への影響が続きました。農業分野におきましても、需給動向の不安定さや肥料・資

材・飼料の高騰を抱え苦勞の絶えない一年であったかと思ひます。

そのような中、4月～10月の農耕期間の気象経過を振り返りますと、気温は6月にやや落ち込みましたが通して平年よりもやや高く、積算気温は106%となりました。また日照時間は春耕起や水稲収穫期に晴天が続き、平年比108%となりました。しかし、降水量に関しては6月下旬と8月上旬に集中した降雨があり平年の144%でした。このため排水不良地等では過湿条件が長期にわたり続き、病害虫の蔓延や生育障害を受けた場面が見受けられました。このことから排水対策を踏まえた基盤整備や土地改良の重要性を改めて認識した年であったかと思ひます。

昨年の各作物の作柄はこのよ

うな気象条件のもと、次のような概況となりました。

水稲では、本田移植後分げつがやや遅れ、穂数が平年を下回りましたが、籾数や登熟が良好に推移し「良」の評価となりました。品質・食味も高い水準にありました。

ミニトマトなど施設野菜類は、高温期の病害多発や樹勢低下等による収量低下が影響し生産計画数量を下回りました。

肉牛につきましては、黒毛和種素牛の出荷頭数は堅調でしたが、販売単価は軟調に推移してまいりました。

軽種馬生産において、サラブレッド競り市の年間売却額総額が過去最高額を記録しました。

また、ホッカイドウ競馬においても、馬券発売額が道営競馬史上の最高額を更新しました。日本中央競馬界においても、日高管内の生産馬が大活躍し、全国ニュースでも数多く取り上げられ、馬産地「日高」の名前が広く伝えられました。

農業を取り巻く情勢は、引き

続き予断を許さない場面が見込まれ、先行きが不確実な状況にあります。このような中、地域で成すべき事は、施策に依りて長期的な戦略検討が必要と存じます。10年後の目指す姿のため「今すべきこと」を見つめ直し、一歩づつ積み上げていく事が肝要かと思ひます。

農業者の皆様の果敢な取り組みと、日高地域の良さを生かした次世代に繋がる農村・地域づくりを、普及センターとして「農業者・地域とともに考える活動」を第一として進めて参ります。

結びに、本年が皆様にとりましてご健勝で豊穡の年となりますようご祈念申し上げます、新年に当たってのご挨拶といたします。

